2021年度前期 大学院FDアンケート結果に対する改善報告書

専攻名	生活文化研究専攻
専攻主任名	小泉 玲子
教務主任名	野口 朋隆

200字以内

今期の総評
いずれの項目も高評価を得ることができた。院生は真摯に研究に取り組み、指導教員とのコミュニケーションも取れていると判断した。今後もより充実した研究生生活を送ることが出来るよう院生の動向を、専攻全体で見守りたい。

200字以内

改善のための方策
諸活動や学会活動参加の評価が他の項目に比べて低い点については、専攻内で実施している例会を活性化し、院生同志の刺激や励みとなる場とする。オンラインは遠隔地の方の参加も可能となることから、例会の開催方法はその都度検討し、対面・オンラインの利点を活かした取り組みをしてゆく。

2021年度前期 大学院FDアンケート結果に対する改善報告書

専攻名	生活科学研究専攻
専攻主任名	小西香苗
教務主任名	高尾哲也

200字以内

今期の総評
<p>専門的な力の向上、授業内容の満足度、研究指導の適切さ等において、高い評価を頂いており、教育内容には概ね満足であると考えられる。</p> <p>設備面では、ハード面での設備(コピー機、パソコン、プリンターなど)の満足度は高いが、院生室の利用やその有益性の評価は低いことが伺えた。</p> <p>また、コロナウィルス感染症の影響もあるのか、研究室の諸活動や学会活動、研究テーマの進展具合など、研究の進捗にかかわる評価が低い傾向であった。</p>

200字以内

改善のための方策
<p>院生室利用について、回答者が少ない上に評価も低い結果であった。今年度頭にロッカー入替、書棚整理、机などの整備を行ったが、更なる学習環境整備と学生への利用の勧奨を行っていききたい。</p> <p>コロナ渦における研究促進を具体的に考えていく必要がある。教員間での情報交換や研究環境整備などを行い、院生がストレスなく実験や演習ができるような工夫を行っていききたい。</p>

2021年度前期 大学院FDアンケート結果に対する改善報告書

専攻名	心理学専攻
専攻主任名	松野 隆則
教務主任名	村山 憲男

200字以内

今期の総評
<p>学期途中から緊急事態宣言が発令され、授業形態は各専攻の判断に委ねられた。本専攻ではオンライン授業と対面授業が行われたが、大きな混乱はなく、カリキュラムや授業内容、研究指導への満足度は概ね良好であった。</p> <p>しかし、学会参加等に対する評価は、全専攻全項目中、最も低い値であった。これは当専攻が解決すべき重大な課題であり、今年度中に改善に努める。一方、昨年度の課題であった学内施設の利用は、今回評価が向上した。</p>

200字以内

改善のための方策
<p>学会参加について、我が国における心理学研究の中心的な学会である日本心理学会や、臨床心理士資格との関連の深い日本心理臨床学会を中心に、当専攻全院生に学会入会を積極的に推奨する。また、学会の年次大会についても、今年度は終了した学会も多いが、来年度に向けて様々な学会の大会情報をアナウンスし、大会・研究会等への参加をできるだけ勧めて行きたい。</p> <p>その他の点についても、引き続き改善を検討していく。</p>

2021年度前期 大学院FDアンケート結果に対する改善報告書

専攻名	福祉社会研究専攻(1年制)
専攻主任名	粕谷 美砂子
教務主任名	鶴田 佳子

200字以内

今期の総評
1年制コース初年度にあたり、授業内容、受講方法、授業外での課題、ガイダンスや連絡上の事務的なサポート、院生室の利用方法について等、多岐にわたる問題点が社会人院生から指摘された。一方で修士論文や研究課題に関する研究指導については、積極的に取り組むと同時に適切な指導が行われている点の評価が高かった。

200字以内

改善のための方策
講義内容や進め方、授業外での課題、連絡方法など、指摘を受けた内容について専攻教員へ情報共有し、個々の科目の問題点については該当教員に状況を確認の上、改善を依頼する。1年制コース共通の問題点である連絡方法や院生室、設備利用等については専攻教員で対応及び改善策について話し合い、関連部署にも協力を依頼の上、2年制院生も含めた社会人院生の学びをサポートできるよう改善に努める。

2021年度前期 大学院FDアンケート結果に対する改善報告書

専攻名	福祉社会研究専攻(2年制)
専攻主任名	粕谷 美砂子
教務主任名	鶴田 佳子

200字以内

今期の総評
今期から本専攻内に社会人向け1年制コースが開設されたことにより、2年制の院生も履修科目選択の幅が広がったが、履修にあたって1年制と2年制とでは受講生の修学目的の相違など、いくつかの課題が浮き彫りとなった。また図書館等設備に対して、特に社会人院生向けの対応が求められている。

200字以内

改善のための方策
1年制コース開設が2年制院生にとってもメリットとなるよう、浮き彫りとなった問題を科目担当教員間へ周知し、改善を図る。図書館の開館時間に関して、土曜夜間及び日曜の開館の検討を依頼する。PC等設備利用時のサポートが求められる部分に関しては対応を検討する。

2021年度前期 大学院FDアンケート結果に対する改善報告書

専攻名	環境デザイン研究専攻
専攻主任名	下村 久美子
教務主任名	森部 康司

200字以内

今期の総評
コロナ禍ではあったが、ほぼ通常通りの授業運営ができていたこともあり、回答者の評価は概ね高い評価であった。しかしながら行動制限の影響を受ける研究室での諸活動や学会への参加に関する設問は予想通り低評価となった。

200字以内

改善のための方策
後期も引き続き行動制限が行われるものと予想されるが、そうした中でもできる研究室活動や学外活動を積極的に開拓し、学生のモチベーションを高められるよう工夫していきたい。

2021年度前期 大学院FDアンケート結果に対する改善報告書

専攻名	人間教育学専攻
専攻主任名	石井正子
教務主任名	中村徳子

200字以内

今期の総評

全員の回答を目指し何度か促したが、3名が無回答であったのは残念である。
全般的には高い評価を得た。研究テーマの進展具合についてのみ4を下回ったので、後期は各自の研究テーマが進むよう指導していく必要がある。
これまでは環境面に関する評価が低い傾向があったが、ここ数年ハード面を整えてきた甲斐があり高評価に転じた。

200字以内

改善のための方策

カリキュラムに関して、評価としては低いわけではないが、研究テーマも多様化しているのでさらに充実させていく必要がある。研究テーマの進展が進んでいない院生をフォローするためにも、全体的な研究会を定期的を開催するなど工夫したい。

2021年度前期 大学院FDアンケート結果に対する改善報告書

専攻名	生活機構学専攻
専攻主任名	中山 榮子
教務主任名	今城 周造

200字以内

今期の総評
<p>カリキュラム・授業については、図書館を除いて4以上の評価であり、博士課程の授業や研究指導には全体として問題がないと受け止めた。</p> <p>長期履修生の研究費の弾力的運用、および日本語による論文執筆・発表のための授業の開設について要望のあることが分かった。</p>

200字以内

改善のための方策
<p>長期履修生の研究費の弾力的な運用について、事務方と協議する予定である。</p> <p>留学生のためのアカデミックライティングの授業は実現が困難であるが、何らかの支援策を検討していく。</p> <p>研究指導については、今後とも学生のニーズに合わせて充実させていく。</p> <p>研究指導のあり方について相談のある人は、専攻主任か教務主任に連絡をとってほしい。</p>

2021年度前期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	日本文学専攻
専攻主任名	胡 秀敏
教務主任名	胡 秀敏

200字以内

今期の総評

講義内容、研究指導ともに高い評価を得ており、総合的な満足度も高い水準になっている。一方、開設授業科目数や設備への満足度が3点台にとどまっているのは課題となっている。

200字以内

改善のための方策

授業科目数増設への要望については、他大学との単位互換制度の利用状況を把握したうえで、カリキュラム編成方針に基づき検討を加え、設備への要望に関しても詳細を聴き取ったうえで改善を図りたい。

2021年度前期 大学院FDアンケート結果に対する改善報告書

専攻名	英米文学専攻
専攻主任名	川畑 由美
教務主任名	金子 弥生

200字以内

今期の総評

今期は在学生在が1名であり、授業時に意見交換をしたり、授業外の時間に話し合うことが出来ず、大変だったと思われるが、授業にまじめに取り組み、中間発表会でも教員からのコメントを受け、それを修士論文に生かしたいと熱意を見せていた。

緊急事態宣言が解除された時期には、院生室を使用していたようだが、前期は利用もままならなかったようであった。

200字以内

改善のための方策

学生はまじめに授業に取り組み、修士論文に関しても少しずつテーマを掘り下げているが、他に学友がいないため、研究に関する情報交換などが出来ない状態にある。そこで卒業生ネットワークを作り、在学生の支援をできるようにしたり、オンラインで開催されている学会に参加して知見を広めるよう促していきたい。また、英米文学専攻への入学者が出るよう学部生への情報提供を行う。

2021年度前期 大学院FDアンケート結果に対する改善報告書

専攻名	言語教育・コミュニケーション専攻
専攻主任名	西川寿美
教務主任名	西川寿美

200字以内

今期の総評
専攻生全員から回答が得られ、概ね良好な結果であったが、平均点が3点台の項目については、注目していきたい。学びに関わるものとして図書館蔵書と科目数に対する評価が低めであったことは例年通りである。自己評価を個別に確認すると個人差が見られ、学年による違いがあることが推測される。実態を把握するためには、回答に学年情報を入れることも検討できる。前期はオンライン授業が多かったため研究室の使用は限定的であり、評価もその範囲にとどまるものと思われる。

200字以内

改善のための方策
図書館蔵書に対する正当な評価のために図書館の使い方を周知させる。学会・研究会活動については平均点がやや上向いてきたが、引き続き学生への働きかけを行う。「研究テーマ進捗」、「将来につながるもの」の2項目については学年による違いが当然ながら予想されるが、現行の方式では学年の区別ができない。

2021年度前期 大学院FDアンケート結果に対する改善報告書

専攻名	文学言語学専攻
専攻主任名	横山 紀子
教務主任名	鈴木 博雄

200字以内

今期の総評

回答率は80%であった。科目数、コピー機等の設備、学会参加に関する評価が低めであった。とは言え、大学院に対する総合的な満足度に対する評価は順調である。設備への評価については、コロナ渦でリモートの授業も多く、学内の設備を利用し難い状況が反映しているものと思われる。

200字以内

改善のための方策

科目の数や種類に関する評価は毎回、低い傾向があるので、教員間及び教員・院生間の話し合いを通じ、院生の満足度を高めるために必要な科目の一層の充実を図る。加えて、効果的な学力獲得や学位取得の早期実現を目指した授業運営を創意工夫する。